

**「子育てひろば研修セミナー」〈広島開催〉のご報告**  
**テーマ：親育ち、子育てを支えるさまざまなひろばの力・タ・チ**

11月8日「子育てひろば研修セミナー〈広島開催〉」が行われ、広島県域、中国地方だけでなく九州・四国地方からも申し込みがあり、175名の方にご参加いただきました。

**<開催概要>**

開催日 / 2008年11月8日(土) 10:00~16:45  
会場 / 広島国際会議場 コスモス・ラン (広島市中区中島町1番5号)  
主催 / 財団法人こども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会  
後援 / 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・広島県・広島市  
(社福)広島県社会福祉協議会・(社福)広島市社会福祉協議会  
協力 / 「子育てひろば研修セミナー」〈広島開催〉実行委員会  
子育て応援ネットワーク子育ておたがいさま〜ズ

参加者数 / 175名

(行政56名、NPO・任意団体61名、その他団体・企業35名、その他23名)

**<開催趣旨>**

平成19年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間の連携を図りながら、子育てひろばの意義と役割を検証します。また、ひろばスタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

**<プログラム趣旨>**

広島県では、子育てサロン、つどいの広場、子育て支援センターが年々増加し、子育て支援を考える人がさまざまな形でそこに関わっています。子育てする親子の育ちを支え合いたいという支援者の思いはみな同じはずですが、課題は多様で決して少なくありません。

今回、「何のための子育て支援?」「何を目指す子育てひろば?」の原点に立ちかえり、子育てひろばの意義を再確認しながらそれぞれの特性を生かして、地域にあったひろばのあり方を考える場にしたいと思います。また、県内の関係者がお互いのつながりを意識し、学び合い、さらなるネットワーク作りを進めていく機会になることを願っています。



## <プログラム>

### ■開会挨拶■

#### ◆主催者挨拶

財団法人こども未来財団研修事業部次長 岡林一枝さん



#### ◆実行委員長挨拶

子育て応援ネットワーク子育ておたがいさま〜ズ代表 金子留里さん



### ■プログラム1■ 10:15~10:45

#### 基調講演

テーマ：「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

講師 厚生労働省少子化対策企画室 室長 朝川知昭さん

朝川室長より、現在の我が国の少子化の現状とその背景、ワーク・ライフ・バランスの実現、新待機児童ゼロ作戦、児童福祉法や次世代育成支援対策推進法の一部改正、地域の次世代育成支援行動計画、地域子育て支援拠点事業の21年度予算概算要求等、多岐にわたって豊富なデータを元に説明いただきました。



#### ●参加者から

- ・グラフにされると実感がわきました。少子化、子育て支援の必要さ…昔はなくても近所同士のつながりがあったこと。現在、現代の不安でもあることです。
- ・難しかったが、こういう情報も必要だと感じます。
- ・今の社会事情がよくわかりました。行政の進む道と、現場にギャップがうまれないことを願います。



### ■プログラム2■ 10:45~12:30

#### 基調講演+ワークショップ

テーマ：「ひろばに求めるもの、求められるもの」

講師 武蔵野大学人文学部教授 武田信子さん



参加者全員が知らない者同士の5人でグループをつくり、以下のテーマによるワークショップで進行了しました。このようなワークショップをそれぞれのひろばに持ち帰ってスタッフと行うこと、つまり、自分がしたいこと、しなくてはならないと思っていること、利用者が求めていること、などの検証作業を行うことの必要性がしっかり伝わったプログラムでした。

- ①「子育てひろばがなかったら・・・」の「・・・」を埋める。
- ②「今、幼少期に必要だと思う体験」をトーキングスティック方式で発言。
- ③「子育てひろばは、②の体験のうちどの体験をさせていますか」
- ④「皆さんが小学校入学前の頃、あなたはどこで何をしていたのが楽しかったですか？そうして遊んでいるとき、大人たちはどこで何をしていましたか？」
- ⑤「子育てひろばに子どもを連れて行ったとき、そこにいる大人たちは何をしていますでしょうか？利用者は、大人たちにどうあってほしいと望んでいますか？」
- ⑥資料『ひろばに求めるもの、求められるもの』を参照。
- ⑦講師の意見に関する感想を討議。
- ⑧『子育てひろばのコンピテンシーリスト』の説明ならびに討議。



### ●参加者から

- ・本当に今の支援のカタチが、親子のためになっているのかももう一度考える必要があると思いました。考える視点をかえることができよかったです。
- ・あっという間に時間が過ぎてしまった。充実した時間となりました。帰ってからスタッフと自分たちがどんなひろばをめざしているのか話し合いたいと思いました。
- ・一方的に話を聞くより、みなさんの意見を聞くことができ、自らの考えをまとめるにも有意義でした。

### ■プログラム3 ■ 13:30～15:30

<第1分科会> 『ひろばの協働ってなあに？』 ～さまざまな協働のあり方とその意義を考える～

コーディネーター	築地 律さん（三鷹市生活環境部コミュニティ文化室）
事例報告	檀上 英子さん（NPO 法人子育てネットゆめもくば副理事長）
	向井 昌子さん（ほっとさろん西門前てととセンター長）
	西宗 純さん（広島市東区厚生部保健福祉課）
コメンテーター	棚多 里美さん（(財)ひろしま子ども夢財団事務局長）



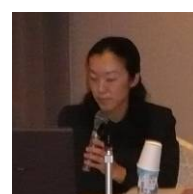
築地さん



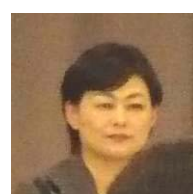
檀上さん



向井さん



西宗さん



棚多さん



事例報告では、檀上さんからはひろばの立ち上げを通じて、地域全体で子育て中の親子を見守れる環境づくりが大切であるとのお話があり、向井さんからは地元商店街との協働事業や、ユニークな事業名称の採用など利用者に身近に感じてもらえる取組、長期的な子育て支援のビジョンのお話があり、西宗さんからはひろばの開設にあたり地域と行政の協働により設立した運営協議会の中で、行政も一構成員となり開設・運営の仕方などを形とした経緯についてお話いただきました。



引き続き行われたワークショップでは、「協働することの可能性」について様々な立場から話し合いが行われ、「協働の仕掛けには大きな労力が必要」、「子育て支援の次の担い手育成が必要」、「協働には信頼関係、役割分担の明確化が必要」などの意見がありました。



最後に棚田さんからまとめとして、より良い協働を行うには、①目標のすり合わせ、②対等なパートナーシップ、③やりがいの見だしといった要素が必要であることをお話いただき閉会しました。

#### ●参加者から

- ・ 民営と公営では課題が違うということが明らかに…。行政の方が多く参加され、協働を考えようとしていることはすごいな、と思いました。
- ・ 自分の考えた理由を言って他の人に納得していただいたり、こんな考えもあるのかと思ったり新たな発見が沢山ありました。
- ・ 行政サイドより民間NPOの情報がもっとあればいいなと感じました。

#### <第2分科会>『親育ち・子育てを支える支援とは?』～子育て支援者の資質アップをめざして～

コーディネーター	林 真未さん (ファミリーライフエディター)
事例報告	坂本 牧子さん (e子育てセンター)
	中岡 博美さん (呉市すこやか子育て支援センターひろひろ*ばセンター長)
	角田 寛治さん ((財)ひろしまこども夢財団事業課長)
コメンター	篠田 絵里さん (総社市保険福祉部こども課 保健師)



林さん



坂本さん



中岡さん



角田さん



篠田さん

ファミリーライフエデュケーターの林さんのコーディネートにより、広島県内で活動している3名から次のとおり事例報告があり、参加者との質疑・応答を行うとともに、コメンテーターの総社市保健福祉部こども課の篠田さんから「行政の保健福祉分野との連携強化」等の助言を受けるなどして「親育ち・子育てを支える支援」の地域での多様な取り組みや在り方について相互に理解を深めることができました。

- ・e子育てセンターの坂本さんからは、民間による子育て支援センターとしてホームページによる情報提供と情報交換や24時間緊急対応の保育サポートの実施など、地域での積極的な取り組みについて報告。
- ・呉市すこやか子育て支援センターひろひろ\*ばの中岡さんからは、市民活動から出発し、行政との役割分担と支援の下、地域と一体となり「人と人をつなげていく役割」を担っていることについて報告。
- ・(財)ひろしまこども夢財団の角田さんからは、企業や医師会・歯科医師会、県警などと連携して、携帯サイトやホームページ、ラジオで多彩な子育て情報の提供を行うなどしていることについて報告。



### ●参加者から

- ・いろいろな情報提供研修の在り方を知りました。コメンテーターから妊婦検診の際にひろばにプレマを誘導の話がありました。保健所とひろばとのつながりの必要性を感じました。
- ・事例報告…自分の広場が今からやりたい必要性などを成功させている話を聞き刺激になりました。まだまだ広場スタッフとして新米なので、日々勉強することがあるんだと再確認しました。
- ・研修は日常にあるということがとても印象的です。学ぶ気持ちを常にもっていたいと思います。

### <第3分科会> 『「支援する・される」を越えて』

～お互いを知らなきゃ始まらない世代間交流ワークショップ～

コーディネーター	吉橋 久美子さん (くらすば主催・生涯学習財団認定コーチ)
事例報告	神信 千晴さん (子育てオープンスペース サニープレイス代表)
	秦 寿枝さん (子育てサロンはたか)
	岸田 由紀子さん・入澤 優里さん (広島国際大学学生)



吉橋さん



神信さん



秦さん



岸田さん



入澤さん

コーディネーターの吉橋さんの進行で始まり、子育て当事者として子育て支援サークルを運営している神信さん、先輩ママとして子育てサロンの運営に関わる秦さん、看護科学生として子育てひろばに関わる岸田さん、入澤さんから、これまでの活動の紹介と気づき、それぞれの思いをお聞きしました。

続いて「わたしの世代の子育て観 イロイロアンケート」と題して、「子育ても大事だが、自分の生き方も大事にしたい VS 自分の生き方より、子どもが第一」等の質問に、シール投票で答えながら参加者自身の子育て期の思いを振り返り、世代間の思いの違いはどんなものかをみんなで探りました。

次に、「よりよい子育てひろばづくりのために大事なこと ダイヤモンドランキング」という、ひろばづくりに欠かせない9つの項目を大事な順に並べ替えるワークショップをしました。このワークは、グループのランキングを完成させることが第一の目的ではなく、話し合いで交流を深めることが目的でしたので、活発な意見の交換をしながらも和気あいあいとした雰囲気が進み、最後にそれぞれのグループで話し合った内容を全体で発表してまとめをしました。



#### ●参加者から

- ・違う世代の方と話す機会が少ないため、貴重な意見交換の場を頂けてうれしかったです。
- ・子育て支援をする側、される側で意見が違っていて勉強になり、おもしろかったです。私は親の主体性というものについて考えさせられました。もっと親自身がこうしたい！！と思えるようになればひろばは変わると思いました。
- ・みんなの価値観の違いを改めて感じました。人の考えを聞くことは大切だと思いました。

#### ■プログラム4 ■ 15:40~16:45

##### パネルディスカッション+まとめ

コーディネーター	金子 留里さん（子育て応援ネットワーク子育ておたがいさま～ズ代表）
パネリスト	築地 律さん（第1分科会）
	林 真未さん（第2分科会）
	吉橋 久美子さん（第3分科会）
アドバイザー	武田 信子さん（武蔵野大学人文学部教授）



金子さん



築地さん



林さん



吉橋さん



武田さん

それぞれの分科会のコーディネーターから様子や内容の報告があり、参加者からも参加して感じた事などの発言がありました。最後にアドバイザーの武田さんから今後の子育てひろばの在り方や研修セミナーの内容の見直しについての問いかけがあり、まとめをして終了しました。

朝から夕方まで長時間の研修セミナーでしたが、最後の全体会にも 100 人以上の方が参加され、活気に満ちた会となりました。

---

#### ●参加者から

- ・すごく多くのことを聞け、学んだという充実した気分でした。
  - ・自分が何のために子育て支援をしているのか？見つめ直すヒントがいっぱいありました。
  - ・子育てのキーワードでたくさんの学びがあった。地域の子育て力を上げるのか、ひろばを作るのが目的なのかという問いがあり、的確な指摘だと思った。
-